

2015年1月25日川越教会

幸いな人

加藤 享

【聖書】ルカによる福音書6章20～21節

さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、／あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、／あなたがたは笑うようになる。

【序】信じ合う世界をつくるために

去る20日シリアのイスラム過激派「イスラム国」が、3日以内に身代金2億ドルを支払わなければ拘留している日本人二人（湯川・後藤さん）を殺すというインターネット動画を発信しました。日本国政府は二人の救出に全力を尽くしていましたが、湯川さんは処刑されてしまったようです。自民党は今年度の予算を国会に提出しますが、赤字国債は1000兆円を超えて、膨らむ一方です。国民一人当たりで800万円以上の借金を負担させられていることとなります。このような時に、危険を承知でどうしてまた多額の国家負担を負わせる行動をとったのか、という非難が飛び交っています。

後藤さんはクリスチャンです。幼い時から心の優しい子で、成人してジャーナリストになってからも常に「戦場の子どもたちの命を救いたい」と言っていたそうです。10月に子どもが生まれたばかりでしたが、友人の湯川さんが8月にイスラム国に拘束されたと知り「何が何でも行かなければ」と現地に飛んで行ったのでした。トルコからシリアに入る時に、「如何なる事態が起ころうとも、一切は自己責任です」と言明している場面もTVに報道されていました。

では危険をおかしてもどうして戦場に行くのでしょうか。13年9月にシリアで拘束された経験を持つジャーナリスト横田さんはこう語っています。「血も涙もない集団と報じられているが、彼らの支配下の街は平穏だった。宗教指導者は温厚な人柄で『空腹ではないか』と気遣ってくれた。我が身をそこに置き、自分で話をかわさなければ見えてこない世界があるのだ」現地から離れた所で生まれる憶測や予断が独り歩きをして、対立と抗争を広めていくのですね。

武器をとって身構えてしまうのは、相手を信じない臆病さの現れです。同じ臆病におののく人間同士だと信じ合って話し合い、理解し合う関係を何として

もつくり上げていきたいものです。そのためにお互いに知り合っていく**真実の報道**がとても大切ではないでしょうか。後藤さん・湯川さんに限らず、危険な地といわれる国や地域に、なんとかして出ていこうとする人たちの安全を祈りつつ、心から応援していかなければならないと、あらためて思われています。皆さんは如何お考えでしょうか。

【1】 貧しい人はさいわいである

今日の聖書は、マタイ福音書とルカ福音書に記されている有名な主イエスの説教です。マタイ福音書の**山上の説教**は5章から7章にわたってまとめて記されていますが、ルカ福音書の**平地での説教**では6章の他、色々な箇所に分散して記されています。ということは、主が特別な機会に教えられた大説教をルカが色々な機会に話された説教として記したと言うよりも、色々な機会に説教された教えを、マタイが山上の説教として**まとめて編集した**と言えるでしょう。

マタイ福音書の書き出しは「そこでイエスは口を開き、教えられた」（5：2）ルカ福音書の書き出しは「イエスは目を上げ、弟子たちを見て言われた」（6：20）**「教えられた」「言われた」**という動詞は**未完了過去形**です。これは**反復・継続された動作**をあらわします。即ち「いつも教えておられた」「繰り返し言われた」説教だったということです。それをマタイは一ヶ所にまとめて、ルカは色々なところに分散させて、各自の特色を現す福音書に編集したと言えます。

そこで今日は主イエスの有名な説教の中から**「幸いである」**と主がおっしゃる信仰について集中することにいたします。英語では **happy・happiness** ですが、語幹のhap は、**偶然・運**という意味を持つ語です。すなわち**人生の幸福**は、運とか偶然に左右されて生じたり、消えていくものだという思いが込められている言葉だと、或る人が解説していました。そうですね。

幸せな生涯を送りたいと強く願い、人生の**運・不運に一喜一憂**して生きている人が多いのではないのでしょうか。そこで開運祈願とか厄払いを求めて、神社やお寺にお参りしています。それに対して主イエスはきっぱりとおっしゃいます。「**貧しい人々は幸いである**」

この「**貧しい**」は、無一物、全くの欠乏、**物乞いをする貧しさ**を現す言葉です。日本人の大多数は中産階級意識を持っていると言われていています。そういう私たちが感じる貧しさではなく、ガード下や公園で野宿している人々の貧しさです。普通の人間なら心身ともにとても耐えられないでしょう。でも主はその

ような貧しさは、決して惨めではない。幸いだときっぱりとおっしゃいます。何故ならば、その人には**神の国が与えられているから**だと言うのです。

私たちは**主の祈り**をよく祈ります。「天にまします我らの父よ、願わくばみ名をあげさせたまえ。**み国を来させたまえ**。み心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」この地上でも**神のお心が行われますように**という祈りが、神の国が来ますようにという祈りなのです。もしも私たちが**自分の無力さ**を自覚して、**ひたすら神さまに依り頼む**ならば、神さまがそれに応えて、必ずみ心を行ってくださる。そしてあなたは神の国を持つことになるからとおっしゃるのです。

マタイ福音書では「心の貧しい人々は幸いである」と記しています。**心の貧しさ**とは、謙遜・へりくだりだと簡単に受け取られがちです。たとえ豊かなものを持っていても、謙遜に自分は貧しい者だとつつましく生きる人は幸いだとよく言われます。しかし「心の貧しい」の**貧しい**もルカ福音書と同じ**物乞いする貧しさ**を現す語が使われています。自分の心の惨めさを痛切に自覚させられている状態です。

宗教改革を成し遂げた**マルチン・ルター**は1546年62才で亡くなりましたが、死ぬ2日前に短い言葉を書き残しました。「**我々は物乞いに過ぎない**。それは本当だ」彼は修道院に入り、神の民として守るべき律法を懸命に守ろうと必死に励みました。しかし励めば励むほど、守り得ない**自分の罪深さ**を自覚させられ、絶望しました。そしてキリストの十字架の恵みを信じて**我が身を委ねる**ことによって、**赦されて神の前に立つ**ことができる信仰を得ました。物乞いのようにただただ**主の憐れみを求めて生きる**時、主がみ心をもって彼を導き、御用のために用いて下さり、神の国に生きる生涯を、感謝と喜びをもって送ったのでした。まさに「**まずしい人々は幸いである**。神の国はあなたがたのものである。」というお言葉通りの生涯でした。

【2】今飢えている人々は、幸いである

「今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる」私たちは何に飢えているのでしょうか。何によって満たされ、満足したいと思っているのでしょうか。**出世欲**が満たされないので飢えているのでしょうか。**名誉欲**が満たされないので、飢えているのでしょうか。**正義**を求めて、飢えているのでしょうか。**平和**を求めて、飢えているのでしょうか。

後藤さん湯川さんを人質にして2億ドルを要求しているイスラム国の人々は、

イスラム教の法律**シャリーアを忠実に実行する秩序**に飢え渴いて、武力で実現を計ろうとしています。後藤さんは、彼と同じように何とかしてイスラム国の人たちとも関って行こうとした湯川さんが現地で拘留されたと知るや、「何が何でも行く」と危険を承知の上で出かけて行きました。この人たちも**飢えている** **思い**を強く抱いていたのです。

シリアで拘束された経験を持つ**横田さん**はこう語っています。「血も涙もない集団と報じられているが、彼らの支配下の街は平穏だった。宗教指導者は温厚な人柄だった。現場にわが身を置き、人々と話をかわさなければ**見えてこない世界**があるのだ」現地から離れた所で生まれる**憶測**や**予断**が独り歩きをして、対立と抗争を広めていくのです。

同じ人間同士だと信じ合って話し合い、**理解し合う関係**を何としてもつくり上げていきたいものです。そのために**真実の報道**がとても大切ではないでしょうか。後藤さん・湯川さんに限らず、危険な地といわれる国や地域になんとかして出ていこうとする人たちには、**強い飢え渴き**があるのですね。

その様な人々に向かって主は、「今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる」と語りかけて下さり、正しい命の言葉として力を現して下さいのではないのでしょうか。湯川さんは処刑されてしまったようですが「**あなたがたは満たされる**」というみ言葉が何としても後藤さんの上に行われますよう祈りましょう。安全な地に身を置いて、ただ平和を論じている私などは、飢えているとは言えません。居てもたっても居られない**飢えを覚える者**にならなければと反省させられます。

【3】今泣いている人々は、幸いである

「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。」私たちは大失敗した時に、泣きます。自分の人生もこれまでかと、絶望して泣きます。また口惜し涙にくれることもあります。しかし一番悲しいのは**愛する人と死別した時**ではないのでしょうか。涙を流して泣きます。

主イエスは愛するラザロが死んだ時、墓に葬られて4日たってから彼の家を弔問しました。姉のマルタが主を出迎えて申しました。「主よ、もしここに居て下さいましたら私の兄弟は**死ななかつた**でしょう」妹のマリアも同じように訴えました。「主よ、もしここに居て下さいましたら私の兄弟は**死ななかつた**でしょう」そして**泣きました**。一緒にいた人々も**泣きました**。すると**主も涙を流さ**

れました。(ヨハネ 11 : 35)

主は私たちの悲しみに寄り添って、一緒に涙を流して下さるお方です。それだけではありません。その後で、ラザロを墓から甦らせて、マルタ、マリアのもとに、取り戻して下さいました。「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。」主は**悲しみを喜びに変え**、私たちを笑うようにして下さいる救い主なのです。

主はユダヤ教の指導者たちの陰謀により、十字架にかけられて死刑にされました。「救い主よ。十字架から下りて来て自分を救え。そしたら信じてやろう」と口々に罵られる中で、「**父よ、彼らをお救しください**。自分が何をしているのか知らないのです」と祈りつつ**死んでいかれました**。そして三日目の朝墓の中から**復活**して、人々の罪の全てを贖うために、ご自分が**一切の罪を引き受けて**死んで下さった救い主であることを現されました。

こうして死は**滅び**ではなく、永遠の命をいただいて復活する時を待つ**永眠**に変えて下さいました。**死別の悲しみを喜び笑う時**に変えて下さいました。「今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。」この主のお言葉が**主の十字架と復活**によって、私たちに恵みとして与えられたのです。

【結】 幸いな人生の証

幸せな生涯を送りたいと強く願い、人生の**運・不運に一喜一憂**して生きている人が何と多いことでしょうか。貧しさとか、飢えているとか、泣き悲しむとかいう状態は、**不幸な生活をもたらす張本人**のように思われて、嫌われ、恐れられます。

しかし、もしも私たちが**自分の無力さ**を自覚して、**ひたすら神さまに依り頼む**ならば、神さまがそれに応えて、必ず**み心を行ってくださる**。そして私たちは神の国を持つことになるから**幸せなのだ**と、主はおっしゃるのです。

私たちは何に飢えているのでしょうか。何によって満たされ、満足したいと思っているのでしょうか。今回の後藤さん・湯川さんの人質事件に直面して、同じ人間同士が信じ合って話し合い、**理解し合う関係**を何としてもつくり上げていかなければという強い飢え渴きを覚えました。そしてそのような**平和への飢え渴き**を、主は必ず満たすと約束して下さいます。

また私たちは皆死にます。愛する者との**死別**は本当に**悲しいもの**です。しかし主イエスは死から復活して、死が滅びでも無に帰することでもなく、眠りについて終わりの日を待ち、復活して天に備えられている神の住いに迎えられるという**恵みの将来**を備えて下さいました。それ故に私たちは、喜びと希望をもって愛する人の葬儀を営むことができます。

このように、私たちが主イエスを救い主と信じて、その**み言葉に聞き従うならば**、不幸な人生の張本人と見なされている貧しさや飢えや悲しみが、**幸いな人生をもたらすもの**に変えられてしまうのです。信仰の恵みの有難さです。

聖書を読み親しみましょう。そして導きを求めて祈りましょう。礼拝によって共に励まされ、神の臨在を覚える機会といたしましょう。そして**幸いな人生の証**を立てて参りましょう。

祈ります

今日もこのようにあなたに礼拝を捧げる特別な時間をお与え下さって、感謝いたします。自分の無力さを自覚して、ひたすらあなたに依り頼む信仰をお与え下さい。そして私を通してあなたのみ心を行ってくださいますように。国や文化や宗教が違って、同じ人間同士が信じ合う絆を結べるようにお導きください。後藤さんをお守り下さいますように切に願います。また深い悲しみを喜びに変える復活の恵みを感謝します。永遠の命の希望に生きる信仰を持ち続けて、この世の生涯を全うさせて下さい。幸いな人生の証を立てさせて下さい。このお祈りを主イエス・キリストのお名前によってお捧げします。

アーメン